GrapeSEEDが新しくなって 4月に導入されます

幼稚園、フレンドクラブ、プリミアスクールで使用している英語教材GrapeSEED。新バージョンの教材が4月から一斉に導入されます。これまで年中教材の一部を使用していた年少向けにも新しい専用テキストができました。

GrapeSEED

アメリカの英語学習基準にも対応

年中以上のカリキュラムは、これまで同様、生き生きとした英語が学べる内容に加え、学年が上がるにつれて「書く力」も強化する構成となっています。

また、今後は保護者の皆様にニュースレターをユニットごとに配布し、各ユニットでの学習内容とその到達目標などをお知らせするサービスも予定されています。

園では、この新しいカリキュラムにより、新年度の英語学習が教室でも自宅でもより効果的で楽しいものになることを大いに期待しています。

LittleSEED

NEW

年少向け新教材

年少向け教材「LittleSEED」には専用のテキストとDVDが用意され、楽しいオリジナルキャラクターが繰り広げるストーリーに沿って楽しく英語を学べます。耳を鍛えうる美しい発音が身につくようデザインされており、年少の英語を担当する先生達もトレーニングを受けて臨みます。

GrapeSEEDは現在、18ヶ国、900校を超える学校に導入され、7万人を超える子供達が明泉の皆さんと同様に英語を日々学習しています。うち国内の導入校は約160校、学習生徒数は約12,000人に上ります。

GrapeSEED導入校便り「昭和学院」

このたび、導入校の一つである昭和学院の鈴木祐子園長先生より、子供達の学習の様子を伺いました。昭和学院は千葉県市川市にあり、幼稚園から短期大学まで多くの児童・生徒が学ぶ総合学園で、幼稚園と小学校にGrapeSEEDが導入されています。

昭和学院幼稚園 園長
昭和学院小学校 校長
鈴木 祐子

昭和学院幼稚園は、系列の昭和学院小学校と連携し、長く英語教育に取り組んでまいりました。しかし、英語に触れることを目的とした英語教育では、子供達は英語の時間を遊びの時間と捉えてしまい、英語でコミュニケーションをすることに繋げることができませんでした。

子供達にとって楽しく学べる真の英語教育を必要と感じつつ試行錯誤してきましたが、なかなかこれというものに出会うことができないでいました。

その中で、震災があった2011年の秋に、明泉幼稚園を見学する機会に恵まれました。タクシーを降りた時、素晴らしい環境にとても驚きましたが、何より休み時間に英語の先生と抵抗なく話している子供達の姿に、とても感銘を受けたことを今でも覚えています。レッスンを見ているうちに、この環境を昭和学院でもぜひ作りたいと考え、さっそく英語教育の実施に向けて教員や法人と打ち合わせを進め、プログラムを導入することを決めました。

最初は毎日の英語環境を作ることに一部の保護者からも不安が寄せられましたが、明泉幼稚園から編入してきた保護者からの後押しもあり、初年度から全員の子供達がプログラムに参加できる環境が整いました。今では英語教育が定着し、英語でのコミュニケーションを積極的に楽しむようになりました。

系列の昭和学院小学校でも、幼稚園卒業生用のクラスでGrapeSEEDを継続することができます。プログラム導入前の子供達は、外国人と会っても「ハロー」とも言えませんでしたが、今では自分から積極的にコミュニケーションを取れるようになりました。

今後、子供達が昭和学院から巣立って、世界で活躍してくれる人に育っていくことと確信しています。

英語学習の様子（上2点）、子供達の可能性を引き出し自発的な行動を促す様々な活動

Bible verse

もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。　ローマ人への手紙10章 9,13節

聖書

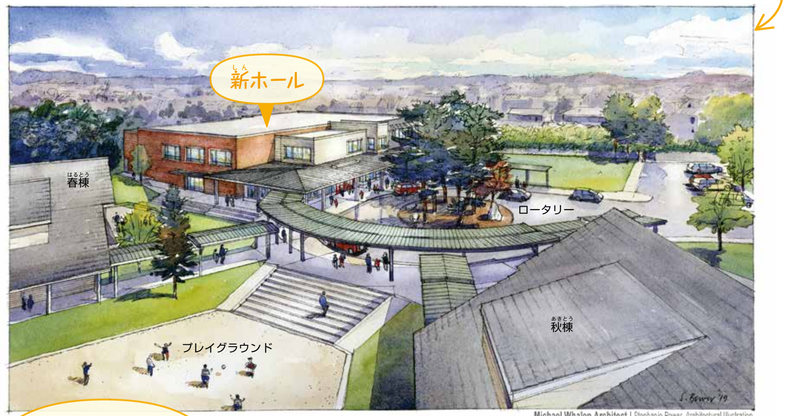
学びの場、そして保護者や地域の集いの場として

丸山のホールが生まれ変わります

明泉学園創立4年後の1971年に完成した丸山キャンパスのホール。あれから47年にわたってたくさんの行事を開催し、子供達の学びと遊びの場にもなってきましたが、手狭となり老朽化も進んだため、2020年に向けて新築工事を進めています。

新しいホールは現在の約1.5倍の広さで、子供達がよりのびのびと活動でき、多様な用途にも使い勝手のいい正方形に近い形状を予定しています。

ロータリーの使用などにおいてご迷惑をおかけいたしますが、安全に工事を進めてまいりたいと思いますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



行事はご家族皆さんで

これまではホールが狭いために行事にお越しいただけるご家族の人数に限りがありました、ホール完成後はご家族皆さんがいらしても十分なスペースが確保されます。

ひだまりのラウンジ

エントランスを入ると、ホールの前には保護者や地域の方々、園に視察にいらっしゃるお客様などにくつろいでいただけるラウンジが広がります。四季折々のひだまりの中、飲み物を片手にゆったりとご観覧ください。

ホールを設計してくださる建築士

マイク・ウェーラン氏　（アメリカ建築協会公認建築士）

マイクさんはシアトル在住の建築士で、これまでアメリカや日本でホテルやミュージアム、住宅など多くの設計に携わり、皆さんが通っている現在の両園舎もマイクさんの手によるものです。古い園舎から現園舎への改築の際には、両園の建物から園庭までの総合的にデザインしてくださり、美しいキャンパスができ上がりました。

そして今回も、マイクさんは園が目指すコンセプト「人々の集いと憩いの場」を体現し、新たな丸山キャンパスのシンボルになる素晴らしいホールをデザインしてくださっています。

表紙： ベルちゃん引退に伴い、アメリカから新しい馬が到着しました。早くみんなとお友達になれるよう、全力でトレーニング中です。詳しくは裏面にTo be continued...

発行日：2019年1月15日　発行：宮城明泉学園　www.meysen.ac.jp
Friends Newsletterは、幼稚園からハイスクール、同窓生などに関する最新ニュースや行事のお知らせなどをお届けする学園ニュースレターです。

Friends

MeySen Academy Newsletter フレンズ

No.185
WINTER
2019

宮城明泉学園ニュースレター

白馬のベルちゃん これまでありがとう！

馬車乗りで20年にわたり 親しまれてきた馬のベルちゃんが、昨年秋の動物イベントを最後に引退しました。優しい性格でよく指示も聞き、真っ白な姿が本当に美しい馬でした。ベルちゃん、ありがとう！

We're Sliding into Winter!

新たな一年のスタートです。
今までできなかったことができるようになったり、目標に向かって
チャレンジしたり、たくさん経験をしながら毎日を大切に過ごしましょう。
そりすべり、節分、ひなまつり――先生達は、3学期も
皆さんと楽しい保育・授業や行事の時間を過ごすのを心待ちにしています。
体を中からも外からも暖めて、元気に登園してください。
寒くても、春はもうすぐそこまで来ています。

5年続くミャンマー高校生との交流

2014年に始まり、今年度で5年目となったミャンマーの学生との交流事業。在園生のご家庭がホームステイを引き受けてくださり、昨年の10月には18名の高校生・大学生が仙台での3泊4日を有意義に過ごし、感動と思い出を胸に帰国しました。
明泉でのお別れの交流会へ出席された、日本ミャンマー協会会長の渡邉秀央氏から、メッセージを頂戴しましたので、ここにご紹介します。

親日国ミャンマーの人材育成と心の交流

一般社団法人 日本ミャンマー協会
会長　渡邉 秀央 氏

私は約7年前の2011年12月に、信頼のおける友人や仲間と共に一般社団法人日本ミャンマー協会を設立いたしました。今から77年前、やむを得ぬ事情があったとは言え、結果的に、当時の日本国はアジア各国に多大なご迷惑をおかけしてしまいました。ミャンマー連邦共和国（当時ビルマ国）もその例にもれず、戦渦に巻き込まれ、多大な惨禍を蒙りました。

しかし、そのような事実があったにもかかわらず、ビルマは残留していた日本兵を一人も戦争犯罪人として裁くことなく、無事に日本に帰国させてくれました。また、戦後の食糧難の時に、数年間にわたり無償でビルマ米を送ってくれ、日本国民は糊口を凌ぐことができました。さらには、東南アジアの他国に先駆けて戦争賠償の請求権を放棄し、また、日本の国連加盟についても積極的に支援してくれました。

私が最も感銘を覚えるのは、ミャンマーが先の大戦後から現在に至るまで、一度たりとも国策としての反日教育を行ったことのない最も親日的な国家、国民であるということです。これらが、今に生きる日本人として、私をしてミャンマー協会設立に至らせたのでした。

翻って、現在のミャンマーは、国の発展は大幅に遅れ、国民生活も貧しい状況にあります。私は日本の一人の老政治家として、ミャンマーの現状を強く憂い、少しでもミャンマーのお役に立ちたいと確固不抜の志を抱き、今日まで協会会員企業や私の志に賛同する企業の協力を仰ぎ、全力で活動してまいりました。

その活動の一つとして人材育成分野が挙げられます。私はミャンマーの大学の指導者とも心を通わせながら、人材育成支援に取り組んでまいりました。しかし、中・高等教育の面での取り組みへの想いはなかなか叶わず、内心忸怩たる思いをしておりました。

そうした最中、理事長のジャン・ブローマン氏との知己を得、志を同じくし、ミャンマー国のミャンマー日本協会と連携して、同国の優秀学生の受け入れのお手伝いをすることになったのでした。この活動を共にすることで、私は明泉学園の皆様を深く理解・認識し、尊敬をする契機を戴いたのでありました。（中略）

私は昨年10月にはミャンマー優秀学生との交流行事にご招待いただきました。そこで痛く感激いたしましたのは、学園の教職員の皆さんのみならず、児童の保護者の皆さん、同窓会関係の皆さんが、一致団結して誠心誠意ミャンマー学生への真心のおもてなしをするひたむきな姿でありました。まさに明泉ファミリーが一体となって活動する場面に接し、私は感涙の流れ出るのを止めることに必死でした。これこそが教育の真髄であり、真の教育の姿であると深く感動したのです。

宮城明泉学園で培われた教育の実が、日本の、そして世界の教育の現場に大きく花開くことを期待し、皆様のますますのご発展とご隆盛を祈念せずにはおられません。

音楽の秋～2つの音楽鑑賞会

去る10月29日と30日、幼稚園とプリミアキンダーガーデンの子供達がモンゴル国立民族芸術劇団の方々による公演を鑑賞しました。モンゴルの伝統楽器「馬頭琴」やコンという琴など、珍しい楽器に触る機会もいただき、曲芸のコーナーもあって、子供達は歓声を上げながら見入っていました。

また、10月30日と31日は毎年恒例の音楽鑑賞会が催され、フレンドクラブとプリミアエレメンタリーの生徒がパーカッションアンサンブルを鑑賞しました。4人のアーティストが奏でるパーカッションとマリンバの軽快な音色に自然と体が動き出し、生徒達が自宅から持参したペットボトルのパーカッションも加わり、会場が一体となっての大盛り上がりでした。

明泉絵本の読み聞かせCDを制作しています

幼稚園とプリミアキンダーガーデンでは、漢字仮名混じり文による明泉オリジナル絵本を年少・年中には年間3冊、年長に8冊配布し、子供達はさまざまな物語をワクワクドキドキしながら楽しんでいます。

そして昨年の秋からは、絵本を自宅に持ち帰ってからも楽しんでいただけるよう、声優やナレーターとして経験豊富なストーリーテラーの方々による読み聞かせCDを制作しています。声のトーンや読むスピードを巧みに変化させながらの臨場感あふれる音読は、まさにプロの技。効果音も加わって、まるで目の前で物語が展開しているかのようなCDに仕上がっています。

4月には完成、配布いたしますので、楽しみにお待ちください！

ストーリーテラーの5名のご経歴をWebページにて紹介しています。QRコードからご覧ください。

小宮路敏先生ご逝去

かねてより入院されていた小宮路敏先生が11月14日に天に召され、19日、20日に多摩ニュータウンキリスト教会で前夜式、葬式が営まれました。

小宮路敏先生は、園長先生をはじめ多くの先生たちがかつて教えをいただいた恩師であり、2008年から8年間は毎年明泉にも来ていただき、園児だけでなく職員にも歌う喜び、生きる喜び、教育の心、ぬくもり、言葉に尽くすことのできないたくさんの恩恵をいただきました。

式には小宮路先生を慕う多くの人々が訪れ、小宮路先生の棺を囲んで、いつまでも歌声が続き、先生との別れを惜しんでいました。これまで小宮路先生に教えていただいたたくさんのことをこれからも大切に引き継いでまいりたいと思います。

中略の部分は、明泉サイトの国際交流ページにてご紹介しています。

ミャンマー高校生から

生涯で一番忘れられない思い出は何かと聞かれたら、私は仙台でのホームステイと答えます。他人を4日も家庭に受け入れるのは簡単ではありませんが、明泉の方々は喜んで私達ミャンマーの学生を迎え入れてくださいました。ホームステイはワクワクする反面、少し不安でもありましたが、ホストファミリーのManaya（丸山ハイスクール10年生 高橋眞弥 Jack）と家族は本当の家族のように接してくれて、快適に過ごすことができました。温かい笑顔に囲まれての初日の夕食は、とてもおいしかったです。（中略）

ミャンマーの学生が仙台にいられたのはたったの4日間でも、別れのときには離れたくない気持ちで涙が出ました。ミャンマーと仙台の学生、そして明泉の間に生まれたお互いを愛する気持ちは永遠に変わることなく、日本の友人に笑顔でまた会えるよう、私は日本に再び来ることを約束します。明泉にお招きいただき本当にありがとうございました。皆さんのお気持ちは決して忘れません。心から感謝しています。

Zaw Lu Htet

ホストファミリーから

ホストファミリーのお話を伺った時に、娘が今まで何度か短期留学を経験させていただいたことへの感謝と、少しでも恩返しとの気持ちで、今回初めて留学生を受け入れさせていただきました。

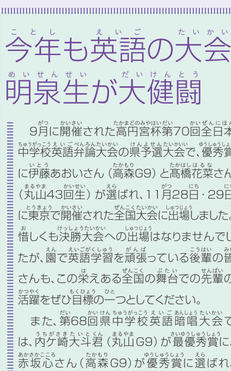
文化も言葉も違うミャンマーからどのような学生が来るのか、どのように接すればいいのか、手探り状態でお迎えしましたが、我が家に来てくれた学生は日本語を勉強している大学生で、初めて日本に来たとは思えないくらい日本語がとても上手で、娘とも初対面とは思えないほど、すぐに打ち解けていました。会話の中で、将来、日本に携わる仕事に就きたい、そのために勉強していることを聞き、純粋な気持ちと熱心さに感心させられました。

3泊4日の短い時間でしたが、一緒に食事をしたり、お互いの国や文化のことを話したり、一緒に高校生活を体験したり、また、最終日の園でのBBQを通しての異文化交流など、私たちはかけがえのない経験をさせていただきました。ぜひ、多くの方々にも感じていただきたいと思います。

帰国する朝は、“ファミリー”との別れに、再会を誓って涙でのお見送りとなりました。

高森ハイスクール11年生
佐々木愛菜(Heidi)さん保護者
佐々木慎一様

今年も英語の大会で明泉生が大健闘

9月に開催された高円宮杯第70回全日本中学校英語弁論大会の県予選大会で、優秀賞に伊藤あおいさん（高森G9）と高橋花菜さん（ともに43回生）が選ばれ、11月28日・29日に東京で開催された全国大会に出場しました。惜しくも決勝大会への出場はなりませんでしたが、園で英語学習を頑張っている後輩の皆さんも、この栄えある全国の舞台での先輩の活躍をぜひ目標の一つとしてください。

また、第68回県中学校英語暗唱大会では、内ヶ崎大斗君（丸山G9）が最優秀賞に、赤坂心さん（高森G9）が優秀賞に選ばれ、内ヶ崎君は11月9日福島で開かれた第66回東北六県中学校英語暗唱大会に出場しました。